

# 「かわいい」と「いただく」

## 紡いでいく命の教育を

一、二学年では、生き物への関心を深めるために、新潟県立加茂農林高等学校の川船農場を教室に生活科の学習を行いました。広い農場には、牛や豚、鶏、山羊が飼育されています。

子供たちは、少しずつ動物に近付いて体に触り、慣れない手つきで、直接エサをあげ



「もらっていい？」

るなどの体験をしました。さらに、鶏の産みだての卵を集めるお手伝いを通して、卵の温かさを感じるなど、自分たちと比べながら、同じような生きている存在として、同じ目線で関わっている姿が感じられました。

農林高校の先生からは、「飼育することは手間がかかります。そして、大きく育つた後、牛や豚を人間が食することになります。だから、食べる時には、命がある生き物に対しての感謝の気持ちをもってもらえたら、うれし

いです。」  
というお話をお聞きすることができました。  
確かに「かわいい」という気持ちと、「いただく」という言葉は、低学年の子供たちにとっては、一直線には繋がってはいけません。しかし、子供たちの心の底流を流れるものとして、大切に指導に生かしていきたいと思えます。

(低学年部)



「こんにちは！」

## 子供目線

ぶたのおかあさん

一年

かものうりんこうこのうじょうで、ぶたをみてきました。

ぶたは、おもったよりおおきかったです。ぶたのはなにさわったら、ぬるつとしていて、やわらかかったです。

おかあさんぶたには、おっぱいがいっぱいありました。ぶたのおかあさんは、すくなくとも二十ぴきのあかちゃんをうむ、というはなしをききました。それで、おっぱいがいっぱいあるんだとおもいました。

えさやり、やったよ

一年

せいかつかのおべんきょう

で、かものうりんこうこのうじょうにいきました。

うしのえさやりをしました。うしのえさはかわいたくさでした。さいしよは、うしのかおがおおきくてこわかったけど、だんだんとなれてきて、にこにこしながらえさやりをしました。

うしがいつぱいえさをたべてくれたので、うれしかったです。



うじょうのえさやり

一年

かものう林こう校の、どうぶつたちにえさをやる時には、気がつけなければいけないことがあります。それは、どうぶつたちの体の大きさとかんけいがあります。

大きい体のどうぶつには、まとめてえさをあげてよいのですが、中くらいのどうぶつには、一つずつあげなければいけません。また、やさしくさわらなければいけません。というのは、どうぶつたちは、とてもおくびょうで、やさしくしないと、あばれるきけんがあるからです。

須田小学校にも...

一年

かものう林こう校のぼくじょうに見学に行きました。ぼくは、いろいろなどうぶつたちにもつとやさしくしたいとおもいました。

牛やぶた、やぎにえさやりをしました。えさをやるときには、「どうぶつに、えさ顔で元気よく、そして、やさしい声で話そうかな。」とかがええました。

もう一回いきたくなくなるくらいのがっかりです。そして、今どは、ぼくたちの須田小学校も見に来てほしいとおもいました。たのしみ



「よくかんで！」